

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470200888		
法人名	有限会社 日本サポートリンク		
事業所名	色えんぴつ・四日市		
所在地	三重県四日市市赤堀1丁目-2		
自己評価作成日	平成21年8月30日	評価結果市町村提出日	平成21年10月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2470200888&SCD=320
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 21 年 9 月 17 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

環境的には周りは倉庫などが多く住宅が少ない立地条件であり、地域の方たちとの交流もなかなか出来ない。しかし朝の散歩が日課になってから地域の方との挨拶から始まりちょっとした会話が生まれてきている。どうしても閉じ籠りがちになる施設生活だが、季節ごとの外出(初詣・花見・紅葉)や人形展や祭りなどの催し物に出掛ける機会を出来るだけたくさん設けられるよう工夫している。また誕生日などには外食などを行い、ご家族と一緒に掛けられるチャンスを作っている。日常生活においてはまず自主性を大事にし、その人がその人らしく暮らしていくにはどのような事を望んでいるかを常に考えるように心がけている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

経営・運営方針に利用者優先の精神で、利用者、家族、職員間の良好なるコミュニケーションのもと、地域や家庭との結びつきを重視することを掲げている。その実践に向けた取り組み、例えば、日々の家族面会時の面接ノートの活用や、職員が毎月一人ひとりの生活状況や健康状態等を纏めた各家族宛通信等、利用者家族との絆を大切にしている。また、事業所内は運営者、管理者、職員の連携もよく、笑顔で明るい言葉が飛び交い、利用者優先で共存している雰囲気である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「いつでもどこでも私らしく」を理念にし、玄関・職員の詰め所に掲示してある。全員がその理念を元に支援にあたっている。	運営方針「地域や家庭との結びつきを重視する・・・」また、理念「何時でも、どこでも、私らしい暮らしの支援・・・」を掲げ職員会議等機会あるごとに話し合い、日々実践に努めている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	毎日の散歩を通して地域の人との挨拶や月一度の音楽療法のボランティアを介し地域との係わりを行っている。	運営推進会議を通じてまた、日々の散歩で係わりができてきている(地域の文化祭への作品展示、公民館行事への参加、自治会の認知症サポーター養成講座への参画、保育園との交流、知人や近隣の方との挨拶)。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の中学校の福祉体験実習の受け入れや福祉専門学校の実習の受け入れ、自治会の認知症サポーター養成講座への参加などを通し、認知症に関しての相談をいつでも受け付ける体制にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	ご家族や市町の職員、地域の方と共にホームのあり方や活動などを報告し、今後の支援につなげることが出来るよう意見などを頂けるようにしている。	メンバーは、市の介護高齢福祉課職員、包括支援センター職員、民生委員、自治会長、利用者家族等で構成され、事業所の現況や取り組み等情報交換が行なわれている。会議は3月と8月に開催され、次回は10月の予定である。	行政の都合もあり、年3回程度の開催に止まっているが、事業所の報告以外にテーマをきめて地域の幅広い分野の方々に出席を呼びかけ、事業所のあり方、役割等検討する場として年6回程度の開催を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	介護相談員の定期的な訪問により相談事や困りごとを伝えたりすると共に、解決策などについてよき相談相手になって頂いている。	毎月介護相談員を受け入れ意見交換するほか、介護高齢福祉保険課や地域包括支援センターとは随時相談問い合わせ等行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が理解をしている。安全上やむをえない場合はご家族の同意を得ている。また毎月の会議において継続の有無を話し合い必要性が無くなり次第解除している。	身体拘束防止マニュアルを整備し、全職員が充分認識している。以前家族の同意を得てベッドに柵をしたことがあったが除く工夫をして、現在一切拘束のないケアに取り組んでいる。また、日中は玄関、門扉とも無施錠である。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	GH連絡協議会や個人で受ける研修などにおいて虐待防止はあってはならない事を常に話している。現在までに虐待などの行為は無いが、見過ごすことの無いように常に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	必要性のある方には知りえる限りの情報を提供し協力している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明を行うと共に納得していただけるよう話し合いを持っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面接ノートを活用し意見・要望を聞かせていただけるよう努めている。玄関にはご意見箱を設置してあるが、出来るだけ直接の対話をしながら意見を聞けるようにしている。	玄関に事業所以外の相談機関を掲示し、意見箱も設置している。また、家族面会時には利用者別の面接ノートを活用し意見や相談を受けている。受けた意見、要望等は毎月の職員会議で検討している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月一回の会議の実施により意見、提案を話し合っている。	代表者や施設長も参加しての毎月の定例会議で話し合うほか、施設長や管理者は日常の会話を通じて職員の意見、要望等聞いている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	自己評価や管理者の評価を行い、能力に見合った報酬を定めたり見直したりしている。現場においての要望などには常に耳を傾けてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	GH連絡協議会の研修において職員のレベルにあった研修を選び参加している。資格取得や外部研修の案内は常に掲示されており希望すれば優先的にいけるよう配慮している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所への1日研修などを行いながら交流が出来る機会を作っている。また職員の交流を掛けた合同の研修や行事なども行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前にご本人の意見を聞くことやご家族にご本人のこれまでの事を聞くことにより、まずその方自身を理解する為じっくりと時間を掛けて信頼関係を作れるよう心がけている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご本人と同じくご家族の悩みやこれまでの関係を知ることでよりよい支援が出来るようしっかりと話し合っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人の状態や環境を知ること、その時その時の必要性を話し合い、他のサービス利用の検討などもお伝えしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	しっかりと話し合うことで、したい事・したくない事を理解し、出来ないことはさりげなく支援できるよう心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	これまでのご家族の関係をj知ること、一方通行にならない関係を築けるよう努力している。行事への参加などを呼びかけ、できるだけ多く交流が出来るよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会についてはご家族からの要望が無い限り何方でも来て頂ける様支援している。また馴染みの場所があれば出来る限り出かけて行けるよう支援している。	職員は一人ひとりの生活歴や環境等アセスメントや日々の会話から思いを共有し、知人宅を訪ねたり馴染みの店や墓参りに出掛けたり支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士が自然と関わりを持てるように支援している。出来る方、出来ない方の差はあるが職員がうまく中に入り支援し、関わりを持っていただけるよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後も相談があれば受ける体制を取っている。また他施設に転所されたり入院されたときも面会に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご自分の意見が言える方にはその希望が出来るだけ出来るよう支援し、困難な方は表情や普段の会話などから思いを把握出来るよう努めている。	一人ひとりにじっくり寄り添い思いや意向の把握に努め、意思疎通が困難な場合は、モニタリングや家族等からの情報をもとに検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式シートを使い、ご家族からの生活歴の聞き取りと合わせ、しっかりとアセスメントできる様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心の状態を言葉で表すことが困難な方もいるので、職員の情報交換などでその方にとってより良い過ごし方を把握できるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	月一回の定例会議においてのカンファレンスで、時間を設け具体的なケアについて話し合い、介護計画に反映させている。	一人ひとりの状態や課題を毎月のケア会議で検討評価し、本人や家族の要望、医師の意見等も踏まえて介護計画を策定している。また、3ヶ月に1度は見直している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の記録に日常生活での気付きや実際の状態を詳しく記入し、職員が共有している。必要があれば24時間シートを利用し詳しく記録をしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	毎朝の散歩が日課となり地域の方との交流もできつつある。また眼科、歯科受診(入れ歯の作成)なども必要性に応じ対応している。今回の衆議院選にも希望者の投票に付き添った。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	月一回の音楽療法のボランティアの利用や地域の方によるヘアカットボランティアを取り入れている。運営推進会議においても自治会での行事に参加できるようお願している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くに協力医療機関があり主治医になっていただいている。専門的な医療受診がいる場合は主治医より情報を出して頂き、情報共有ができることでより良い医療提供ができる様努めている。	利用開始前からのかかりつけ医での受診を継続すると共に事業所の協力医とも連携した対応をしている。また、通院や受診は家族と話し合い職員も同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	週に一度の看護師(主治医の医院の看護師)の勤務時に問題点を相談している。また薬剤師とも綿密な情報交換に努め、適切な投薬が行われるよう支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院への情報提供に努め、できる限り施設にいたときと同じ介護支援をして頂けるよう伝えることで、早期の退院につなげる事ができればと考える。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状態の変化に合わせてご家族の意向を取り入れるようにしている。施設での見取りも視野に入れた援助を行うことができる様、普段から本人・家族と話し合っている。	契約時から本人、家族と重度化した場合の要望や事業所でできること、できないこと等対応を話し合っている。また、状態に変化があれば、本人や家族の意向を聞きながら協力医を交え支援方針を決めている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救急救命の実習を受けた職員もいるが全員ではないので全員が受けるようにしていきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定例会議や運営推進会議において災害時の避難について話し合っている。また消防署の応援も頂き、避難訓練を行った。	5月に火災を想定した避難訓練を実施している。また、地域の方々の協力も得られるよう、運営推進会議で話し合っている。	年1回に止まらず定期的な防災訓練(夜間の災害を想定した通報、職員招集、避難誘導等)の実施と近隣住民の立会い等地域との連携協力が得られるような働きかけも併せ期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	常に心がけており個々に合わせた対応に努めている。伝達・申し送り等は場所を選んで行っている。	管理者及び職員は職員会議や日々のミーティングで態度、言葉かけ等について話し合い、一人ひとりの誇りや自尊心を損ねない対応を実践している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望の話を聴いたら情報共有して、希望に添えるように努めている。献立に希望を取り入れたりの工夫もしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個々のペースで生活していただいている。暮らしの中で希望が重なった場合は、言葉で表現できない方への配慮も忘れないようにしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	自分で好きな洋服を着ている。自分で選べない方もご家族が本人好みの洋服を準備して下さり着ている。訪問理容の際もカットの仕方・顔そりの希望に添って行っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け・準備・片付けなど個々の能力に応じ一緒に行っている。メニューは一緒に考えたり、言葉で表現できない方はご家族に好みを聞いたりして取り入れている。	利用者の好みを取り入れた献立で、配膳、後片付け等は利用者も手伝っている。バックグラウンドミュージック等の工夫もされ、職員も同じテーブルを囲み、会話、声かけのある和やかな雰囲気ですべて食事をしている。また、たまの出前や外食も楽しみになっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お茶はいつでも飲んで頂けるようにして、介助の必要な方への水分補給も努めている。食事の摂取は咀嚼や嚥下能力がやや低下している方もおり形態にも配慮している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	義歯洗浄、歯ブラシ等消毒は毎日行っている。口腔ケアは一人一人の力に応じた支援をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	日中においてはできる限りパッドやリハパンを使わない対応をしている。夜間においては不安を持つ方もいるので、個々にあわせた対応を常に考え支援している。	日々の排泄記録から排泄リズムの理解に努め、出来る限りトイレでの自立排泄が出来るように支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排泄記録をつけることで排便の有無の確認をし、便秘対策を主治医の意見を聞きながら行っている。水分補給にも気を配りできる限り薬に頼らない工夫をしている。散歩、体操は日課として継続している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ある程度の時間は決めてあるが、入浴の有無は本人の希望に添ったものにしていく。順番なども利用者同士で話し合い決めるときもある。	日曜を除き毎日午後、入浴できる態勢になっており、利用者の方が「色えんぴつ温泉」と名づけて楽しんでいる。また、就寝前に足浴を支援したりしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個人のペースを基本とし自由にしたい。不安などで眠れないときは会話をしたり、主治医と相談して解決方法を考えている。夏季にはアイスノン、冬季には湯たんぽの使用なども工夫している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬確認表を使用し、各利用者が確実に服薬ができるように努めている。薬に関しては3-4ヶ月に1度程度薬剤師に来ていただき、状態、変化を話し適切な薬を出していただくようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の役割(掃除・洗濯干し・洗濯取り込みなど)を自主的にして頂けるよう見守りさせて頂いている。また嗜好品なども希望があれば購入したり(ヤクルトなど)している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	毎朝の散歩を実施しており参加も自由である。また家族や知人の協力も得ながら、個人の出掛けたいところまで出来る限り行けるよう支援している。	中庭での日々の洗濯物干し、取り入れや外気浴、また、定例になってきた近隣への散歩を毎朝行っている。更に、希望の理髪店やショッピング、行楽などに出掛けることもあり、また、家族との外出や外食も取り入れている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人で管理できる方には2-3千円程度持って頂いている。希望があれば一緒に買い物などにも行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状などは書ける方には書いて頂いている。今はないが半年前までは携帯電話を持っていた方もいた。電話でも手紙でも個人が希望すればできる様支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな換気やテレビの音の調節など、不快にならない工夫をしている。季節の花を飾ったりして季節を感じていただけるようにしている。また季節に合わせた作品作りなども行っている。	玄関には季節の花が生けられ、廊下や居間の白壁には利用者の方が描かれた一人ひとりの似顔絵作品や共同作品の季節に合った貼り絵などが並べられている。居間兼食堂には天窓が設けられ自然光のほどよい明るさで居心地よさに配慮している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合う同士が互いの居室を訪問したりしている。中庭を活用したり玄関先の多目的ルームを利用したりして、個人個人が好きな場所で過ごしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	馴染みの家具を持ってきているご利用者は少ないが、ご家族が考え、好みの物を揃えてくれている。家具の配置なども考え、それぞれが心地よく暮らせるよう工夫している。	居室は使い慣れた日用品以外に筆筒、テレビ等、更には、マッサージチェア、昔の仕事道具や位牌なども持ち込まれている。また、入り口には、識別しやすい名札を掛けるなど工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	施設内はバリアフリーで手すりなどの補助があり、危険なものは出来る限り置かない工夫をしている。トイレなども見て分るようなサインが貼ってある。		